

共鳴の拡張から重層化へ

文化が生まれる場所 “なんば”

～アートを発信するパブリックスペースの可能性～

なんば各所のパブリックスペースで展開される「アート」とその「場所性」
その過去から未来への「連続性」を考察しながら
文化芸術と公共空間の新しい関係性を、“なんば”のパブリックスペースに探る

原 久子

アートプロデューサー

大阪電気通信大学 総合情報学部 ゲーム&メディア学科 教授

国内外の美術展、芸術祭等の企画運営や執筆、編集企画、コンサルティングなどに携わる。
専門は現代芸術、メディアアート、文化政策等。共編著に「変貌する美術館」ほか。
大阪電気通信大学総合情報学部教授、高松市美術館アートアドバイザーを務める。



×

辻 邦浩

デザイナー

大阪公立大学 都市科学・防災研究センター (UReC) 客員教授

大阪芸術大学 デザイン学科 客員教授

ミラノサローネ、サン・ティエンヌ国際デザイン・ビエンナーレ（フランス）、サラゴサ万博（スペイン）
など国内外でインスタレーション展示を行う。専門は都市デザイン、環境デザイン、サービスデザイン
東京大学、国立民族学博物館などを歴任し現職。



日時: 6月9日(日)14:00-15:30

場所: 大阪公立大学 I-siteなんば 2階 セミナールーム

定員: 30名

(大阪市浪速区敷津東2-1-41 南海なんば第1ビル)

受講料: 無料

共催: 大阪公立大学 都市科学・防災研究センター(UReC)・南海電気鉄道株式会社

問合せ先: 南海電気鉄道株式会社 グレーターなんば創造部 greater-namba@nankai.co.jp